

映画の小箱

男女のもつれに2人の刑事が踏み込むと一瞬の銃声が…。その事件を境に男と女の複雑なドラマが展開する。

『ライブ・フレッシュ』

純粹ゆえに過酷で 熱い愛のドラマ

純粹一途な愛の旅は、目の前の肉体を切り裂いてしまうほどに過酷で、しかし熱い。なんというパッション。ほとぼしる情熱は、相手の体を求め、むさぼり、そしてその果てに愛を勝ち取る。

ここには肉体と愛という人々の不変的テーマを、サスペンスに織り込みながら、まるでジグソーパズルのように組み上げる。疑惑、嫉妬、愛、情熱、セックス…。映像には信じられないほどの、汗と熱と叫びが溢れ出してくる。だけれど、これが不思議なことに、登場者たちは、むやみに音をたてたり叫んだりしているわけではない。彼らが相手を、そして自分を純粹に希求していくうちに、たどっていく愛のドラマが、熱いのである。

それが無垢であればあるほど、困難な現実やしがらみが待ち受け、襲う。だからこそ、その難関を潜り抜けた果てには、まっさらな神との時間があるかのような。それほどに、ここには不変の愛が屹立している。

一九七〇年一月。一人の娼婦イザベル（ペネロペ・クルス）が陣痛で身悶えしていた。娼家のマダムは彼女を連れ出し、道路でバスを停め病院へと向かう。迷惑顔の運転手も出産が間近いと分かり、あわてて車を走らせたものの、病院の目の前でイザベルは出産した。出産は、政府の戒厳令下での町の明るいニ

金丸弘美=文

text by Hiroimi Kanamaru



ユースとして取り上げられ、生まれた男の子ビクトル（リベルト・ラバル）は生涯、バス無料のバスをもらった。

成人したビクトルは無料バスに乗って、一人の女性の部屋をめざしていた。手には、ディスクで出会った彼女エレナ（フランチェスカ・ネリ）のキスマークの付いたコースターが大事に握られていた。目的地に着くと、ビクトルはエレナに電話を入れた。しかし、彼女は、「会いたくない」と断った。「一夜をともにしたのは気まぐれに過ぎない。それで気があると思われるなんて不愉快」と言われてしまう。

納得がいかないビクトルは、エレナの部屋に強引に入る。エレナは頑に拒否し銃を持ち出した。二人は揉み合い銃が空を撃った。



たまたまエレナの部屋の近くを巡回していた刑事のダビド（ハビエル・バルデム）とサンチョ（ホセ・サンチョ）は、現場に向かう。刑事が現場に行くと、ビクトルはエレナを盾に、刑事を阻もうとした。サンチョがビクトルの懐に飛び込み、ダビドはエレナを逃がした。そのとき一瞬、銃声が響いた。

一九九二年、ダビドはパラリンピックのバスケットチームで車椅子の選手として脚光を浴びていた。その傍らには、優しく彼を見守る妻エレナの姿がある。それをテレビで観ていたのは、監獄のビクトルだ。

四年を経て出獄したビクトルは、彼が収監中に亡くなったママの墓参りで、偶然エレナを見かけた。彼女の父の葬儀だった。ビクトルは、エレナに挨拶をした。

ビクトルは、葬儀に遅れてきたサンチョの妻クララ（アンヘラ・モリーナ）に話しかけられ親しくなる。クララは夫サンチョの暴力と嫉妬と酒びたりの生活に愛想をつかしてい

て、すっかりビクトルに夢中になった。

エレナにビクトルが現れたことを聞いたダビドは驚愕する。そしてこっそり追跡を始めた。次にビクトルが出現したのはエレナが園長を務める孤児院の手伝いとしてだった。

エレナもビクトルも驚く。しかし、ビクトルは孤児院でまじめに働くばかりだ。やがてダビドは、ビクトルがサンチョの妻クララと不倫の関係にあることを突き止める。

クララのビクトルへの愛はたかまるばかりか、サンチョの元を離れようと決心させる。だが、ビクトルはクララの愛を受け止めない。クララは呆然となる。

一方ダビドはビクトルと対峙し、エレナに近づくと警告する。そのときビクトルはダビドに重要な事実を告げた。

クララを失ったサンチョは銃を持って、ビクトルの元へと走る。

そこに待ち受けていたのは、なんだったのか。五人の愛の行方はどうなったのか。胸の中を切り開くような、真実が待ち受ける。

ここには、肉体への貞淑さや貞操といったものがない。セックスの求め方もストレートだ。しかし、そこには純粹さがあり、その突き詰めたところに、自然と愛が浮かび上がってくる。五人が切り結ぶ愛の終結は、実にサスペンスフルでもあり、片時も眼を離せないものになるだろう。

『ライブ・フレッシュ』 CARNE TREMULA/LIVE FLESH

(1997年西仏合作スペイン映画)

監督・脚本=パドロ・アルモドバル

出演=リバルト・ラバル/ハビエル・バルデム/フランチェスカ・ネリ/アンヘラ・モリーナ/ホセ・サンチョ/ビラル・バルデム

配給=フランス映画社 日比谷シャンテ・シネ2にて8月29日より公開中